

ISSN 1882-3548 (online), 1882-353X (CD-ROM)

日仏科学史資料センター紀要

**Bulletin du Centre Franco-Japonais
d'Histoire des Sciences (Kitakyushu-Paris)**

Vol.1 No.2

Dec. 2007

日仏科学史資料センター

Centre Franco-Japonais d'Histoire des Sciences

目次

Table of contents

<table des matières>

- *Forum* -

パリ第7大学と北九州市立大学との連携と日仏科学史資料センター.....32

- *Collections* -

コレクション紹介 :

Albert Lemée (1929) Dictionnaire descriptif et synonymique des genres de plantes phanérogames Tome I, Brest, Imprimerie Commerciale et Administrative, Paris.....40

- *Collections* -

コレクション紹介 :

В.И. КЕФЕЛИ et., al., (1977) РОСТ РАСТЕНИЙ И ПРИРОДНЫЕ РЕГУЛЯТОРЫ, ИЗДАТЕЛЬСТВО *НАУКА*, МОСКВА.....41

- *Collections* -

コレクション紹介 :

Paul Desroche (1912) Réaction des *Chlamydomonas* aux Agents Physiques (Étude de physiologie cellulaire), Schulz, Libraire, Paris.....43

- Collections -

コレクション紹介：

A. Guillemin (1884) *La Chaleur*. Librairie Hachette et C^{ie}, Paris.....45

- Book Review -

伊藤俊太郎「近代科学の源流」.....47

- Book Review -

渡辺一夫、鈴木力衛「増補フランス文学案内」.....49

- Member's Voice -

「日仏科学史資料センター紀要」創刊号を読んで.....51

- News -

パリ第7大学研究者の来日（北九州）のお知らせ.....53

新規・海外学術アドバイザーの選任について.....54

サイエンスカフェ視察報告.....55

報告書「パリ第7大学植物学系図書館
第3次資料調査経過報告書：移管資料の暫定リスト」.....56

議事録1.....75

議事録2.....76

- Forum -

パリ第7大学と北九州市立大学との連携と日仏科学史資料センター

河野智謙^{1,2,3}

¹北九州市立大学大学院国際環境工学研究、²日仏科学史資料センター、
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-1 (kawanotom@env.kitakyu-u.ac.jp)、
³パリ第7大学招聘教授 (Professeur Invité, Université Paris Diderot (Paris 7), 2005-
2008)

1. はじめに

北九州市立大学内に事務所を置く日仏科学史資料センター（現在、NPO 認可申請準備中）には、会員各位周知の通り、数名のフランス人学術アドバイザーがいるが、現時点では、そのほとんどがパリ第7大学の教員あるいは関係者である。また日仏科学史資料センターが管理する科学史関連資料の多くも本紀要のニュース欄[1]で報告したように、パリ第7大学から移管を受けたものが多くを占めているのが現状である。そこで、日仏科学史資料センター会員諸兄にも、今後密接な学術交流を行う上で、パリ第7大学についてよく知っていただきたいと考え、本拙文では、パリ大学（特にパリ第7大学）の歴史と、北九州市立大学および日仏科学史資料センターとの関わり（交流状況等）を紹介したい。

2. パリ第大学の歴史

パリ大学は、(伊) ボローニャ大学や (英) オックスフォード大学と同様に、ヨーロッパ最古（つまり世界最古）の部類に入る大学群であり、その起源を12世紀後半（1150年～1170年頃）に求めることができる。本号の書評欄[2]でも紹介した伊藤俊太郎著「近代科学の源流」（文庫版）[3]の中にも記載のあるように、科学史研究の専門家（Pierre Duhem, 1861-1916）は「中世大学のうちでは最も光輝あるパリ大学」[4]と、パリ大学を形容している。次ぎのページの年表にパリ大学の歴史を簡潔に示した。パリ大学の母体が形成されたのは、12世紀の中後期頃（1150年～1170年頃）にまでさかのぼることが出来るといわれているが、「法的」に大学として認定されたのは、1211年に時のローマ教皇インノケンテ

イウス 3 世によって承認された時点にまでさかのぼることが出来るようである。今から実に 800 年程前のことである。パリ大学がソルボンヌ (Sorbonne) と呼ばれるようになった理由は、神学者ロベール・ド・ソルボン (Robert de Sorbon, 1201-1274) がパリに創設したカレッジ (学寮) がソルボンの名をとりソルボンヌ学寮 (Maison de Sorbonne) と呼ばれるようになったことに始まる。当初は神学を修める機関であり、正式に設置された初めての学部も神学部であった。その後、ナポレオン 1 世が皇帝としてフランスを統治する時代に発布された帝国大学令によりパリ大学(区)に神学部、法学部、医学部、理学部、文学部の 5 学部が正式に設置されるまでは、存在する学部は神学部のみという時期が長らく続いたが、実にその間も科学の研究が着実に進められていたことは、参考文献[4]でも明らかにされているところである。

関係年表 (ウィキペディアの関連記述を参考[5]に編集)

1211 年 ローマ教皇 (インノケンティウス 3 世) により、パリ大学が「大学」として認定される

1257 年 ソルボンヌ学寮創設

1259 年 ローマ教皇 (アレクサンデル 4 世) の許可の下、ソルボンヌに神学部創設

1807 年 ナポレオン統治下、帝国大学令によりパリ大学(区)に神学部、法学部、医学部、理学部、文学部を設置。

1969 年 高等教育基本法によって現在の大学制度へ移行。学部の廃止と研究・教育の単位であるユニテの a 創設が行われる。これによりパリ大学は、約 20 のユニテからなる 13 の独立した大学として改組された。

1970 年 パリ第 7 大学(Denis Diderot 大学)が、新制大学の 1 つとして設立される。旧制パリ大学 (ソルボンヌ) より医学部 (Santé)、理学部 (Sciences)、人文学部 (Lettres et Sciences Humaines) の教育課程を引き継ぎ、フランス有数の総合大学のひとつとなる。現在、パリ市中心部 (5 区、カルティエ・ラタン地区) のジュシュー (Jussieu) に位置する。この時期に生物関連研究室の多くもソルボンヌからジュシューに移設された。

2007 年~2008 年 学生数は 27, 000 名を超える (内、22%が留学生)。国立図書館に隣接するパリ 13 区のトルビアックに新キャンパスを開設し、順次移転を行っている。この時期、大学の名称をパリ・ディデロ大学 (Université Paris Diderot) に改めている。

3. パリ第 7 大学の創設

長い歴史を誇ったパリ大学に一大転機が訪れたのは、今から役 40 年前にフランスの大学で吹き荒れた学生運動 1968 年の「五月革命」である (この「5 月革命」にちなんで 2006 年 5 月の 38 年ぶりの大規模な学生運動も「5 月革命」とよばれるようである。筆者の初め

での招聘教授としてのパリ滞在は、この時期に当たったため、講義をすべき大学そのものが閉鎖され、警官隊と学生デモ隊との間をすり抜けて、ガードマンに尋問を受けながら裏口通学をする日々が続いたことは忘れがたい。1968年の「五月革命」は、その前からくすぶり続けたストラスブール大学での学生運動がベトナム反戦運動と結びつき、それがパリに波及すると（1968年5月21日）自由と平等と自治を掲げた約1千万人の労働者・学生がパリ市内でゼネストを行うまでに発展した。日仏科学史資料センターの学術アドバイザーであるパリ第7大学のJean-Pierre Rona教授も学生の頃、ソルボンヌでデモに参加し、自ら投石をしたこと、今でもソルボンヌの学舎には、その時のJean-Pierre青年の投石で壊れた壁がそのまま残っているなどの武勇伝を本人から直接聞いた。このときのデモにより政府は大きな政策転換を余儀なくされ、その余波で1969年の大学制度改革が実施されることになった。この大学制度改革では、全国の大学の学部を廃止し、代わりにユニテ（Unité）と呼ばれる組織を編成すること、パリ大学に限って言えば、パリ大学を13の新制大学へ編成するという大変革が断行された。これにより、翌1970年にパリ第7大学を含む新制大学13校が設立された。伝統あるソルボンヌの名前を継承したのは、パリ第1大学（パンテオン・ソルボンヌ）、パリ第3大学（新ソルボンヌ）およびパリ第4大学（パリ・ソルボンヌ）の3校である。他の大学は、科学者らの名前を関した別名を併せ持つところが多いようである。数字の大学名を名乗るか、人名大学を名乗るか、両方とも名乗るかなど各大学によって事情が違ふようである。パリ第7大学は、最近までパリ第7大学を主に、別名（Université Denis Diderot）は記載したりしなかったりという状況であった（論文や公文書での機関名記載の場合）。しかし2007年より正式名をパリ・ディデロ大学（Université Paris Diderot）と変更し、大学ロゴも数字の7を強調したものから新大学名をデザインしたものに变更している。大学名に冠したディデロは、18世紀に活躍した文学者ドニ・ディデロ（Denis Diderot、1713～1784）にちなんでいる。ディデロは、フランス啓蒙主義の金字塔といわれる「百科全書」の企画と出版に尽力した人物として知られる[6]。

第7大学に現在ある各教室（研究室）は、大学設立後新設の教室を除いて、新制大学の設立に伴い、もともとソルボンヌにあった教室（研究室）からジュシュー地区にある現在のキャンパスに移動してきた場合が多い。日仏科学史資料センターのアドバイザーをつとめるJean-Pierre Rona教授が引き継いだ植物学教室（現在は生体膜電気生理学教室）も、もともとは、ソルボンヌにあったものが学部廃止の大変革に伴い、ジュシューに移動してきた研究室である。

4. 科学史資料の散逸

上述の新制大学設立の際にソルボンヌ大学の各学部が個別に所蔵していた学術資料も、学部の廃止に伴い、新制大学へと移管された。これまでもパリ大学は、第2次世界大戦でドイツ軍にパリが占拠された時期など、困難な時期を何度か経験しているが、学部の廃

止と新制大学の設立が、ソルボンヌ大学に由来する学術資料の制度上の分散の第一歩であったといえる。ジュシューキャンパスは、パリ第7大学だけでなくパリ第6大学（別名：ピエール&マリー・キュリー大学、Universté Pierre et Marie Currie）と共同で利用するキャンパス（学生・教職員合わせて約10万人が所属するといわれる、人数の上では、フランス最大規模のキャンパス）であったが、2007年～2008年にかけて第7大学が13区の新キャンパスに完全に移転するために、今後、ジュシューキャンパスは、パリ第6大学が単独で利用することになる。パリ第7大学のトルビアック新キャンパスの全容は、同大学のホームページに写真および地図等の詳しい情報がある[7]。ジュシューキャンパスでは第7大学のキャンパス移転問題に加えて建物の老朽化および建築素材からの石綿撤去などの諸問題等が同時期に発生し、両大学では、大規模な増改築作業と補修作業とが数年にわたって行われ、書籍を保管する場所にも困るケースも多く見られ、実際にパリ第6大学では多くの書籍や文献を破棄している。この破棄された文献の中には、日仏科学史資料センターでも一部を回収・保管している1900年前後の貴重な書籍も多く含まれていたことから、科学史資料の保護の観点から、非常に残念な事態であったといえる。また本紀要のニュース欄で一部紹介しているように[1]、パリ第7大学においてもキャンパス移転に伴い、多くの科学史資料が破棄されるなど散逸の危機に曝されている。そこで、これらの学術資料を保護し、その資料的価値を再確認するための組織あるいは機関が必要であるとの声がパリ第7大学関係者からあがったが、公共の資料を個々の教員が個人的に管理するのは大学の財産の扱いにはなじまないとして、一部の移転資料を除いて、破棄される予定にあった。これに対し、当時、パリ第7大学に招聘教授として滞在し、その問題に関心をもって既に資料収集に着手していた筆者らが中心となって貴重な学術資料の一部だけでも学外で保管し、科学史研究に役立てるという計画が持ち上がり、北九州市とパリ市にそれぞれ日仏科学史資料センターおよびそのカウンターパート機関を設立することが計画されるに至った。この計画は、パリ第7大学の正式な国際共同プロジェクトとして認知され、植物分野の資料に限って科学史資料の移管と研究利用が可能となった。

5. パリから北九州への科学史資料の移管

現在、上記の目的を達成するために日仏科学史資料センターを発足させ、代表として北九州市立大学の河野、監査を同じく北九州市立大学の上田直子准教授が担当し、近い将来NPOとしての日仏科学史資料センターの認可申請をする準備段階にある。北九州市立大学から2名の教員がNPO法人役員を兼任することおよび、北九州市立大学内に事務所および資料保管場所を設置する許可を得るなど、北九州市立大学から全面的にサポートを受けている。NPO認可申請に先駆けた同センターの活動として、本誌、日仏科学史資料センター紀要（Bulletin du Centre Franco-Japonais d'Histoire des Sciences (Kitakyushu-Paris), ISSN 1882-3548 (online), 1882-353X (CD-ROM)) を創刊し[8]、同センターのホームペー

ジを立ち上げ[9]、パリ第7大学関係者から現在までに6名の学術アドバイザーを選任し、国内からもフランス語の専門家に学術アドバイザー就任を依頼するなど、既に幾つかの活動をスタートさせている。この間のフランス側と日本側の連携した活動の経過および今後の活動計画は、本紀要で既に紹介した通りである[1,8,10]。

本紀要第2号のニュース欄でも報告している通り、ソルボンヌ大学の植物学系（博物学を含む）の研究部門（当時の理学部）から引き継いだ植物学関連の文献に限っては、既にパリ第7大学の植物学系図書館の所蔵状況調査を3回にわたり実施し（2007年4月、7月、11-12月）[1]、これらの調査を通じて確保した科学史資料は、パリ第6大学由来の資料とあわせて、北九州市に移動し、日仏科学史資料センターが管理することになる。今後、新たな活動の進展があればその都度、本紀要で詳細に報告すること予定している。

6. 個人でも可能な資料の保全と資料活用のためのオープンソース化

日仏科学史資料センターでは、主としてソルボンヌコレクション（パリで保管分を在パリコレクション、北九州移管分を在北九州コレクションとして区別している）を管理・活用する活動を行うが、そのほかに個人所有の科学史資料の登録も受け付け、本紀要およびセンターのホームページ上で公開し、広く公共で活用可能なオープンソース化を進めて行きたいと考えている。このような活動には、日仏科学史資料センター会員（および学術アドバイザー）であれば基本的に誰でも参加でき、個人の持つ科学史資料をデータベースに登録あるいは実際に同センターに管理を移管することが可能である（詳細は、同センター内規による）。実際に、同センターは個人名を冠したコレクション（河野コレクション、陽川コレクション）の管理を行っている。科学史の発展は、フランス1カ国あるいは日本1カ国のみで完結して進むことはありえないので、日仏両国以外の科学史資料も可能な限り収集あるいは登録を進め、幅広い資料の利用を会員に提供できる体制を確立したいと願っている。現在、科学史資料を所有しておられて、このような活動に賛同いただける方には、是非ご協力を呼びかけていきたい。

筆者は、まだ、手元に科学史資料を所有していない一般の方が、自ら科学史資料のオーナーとなり、さらには本センターにコレクションとして登録することで科学史資料のデータベース化に貢献する方法があるということを会員諸氏に知っていただきたい。本誌前号にもメッセージとして記述したように[11]、科学史資料の保護と活用に対してしっかりと意識を持った個人が1人でも多く、日本各地の古本屋を巡ることで、いままで埋もれていた、あるいはこれから失われつつある学術資料を発掘することが出来るのではないだろうか。前号の記事では、そのような事例を幾つか報告した。また喜ばしいことに、最近では、企業や図書館が蔵書を廃棄する場合、その情報を一般に公開する例が見受けられるようになって来た。例えば、2007年11月の新聞各紙には「1冊100円、不用蔵書1万4千冊売り出し 愛知教育大（朝日新聞のウェブサイト）」というような記事が掲載されてい

た。このような取り組みは大変好評なようで、この告知後まもなく「ほぼ完売の状態」となったことが報告がなされている。詳細は、同大学附属図書館ホームページの「お知らせ」を参照のこと (<http://www.aelib.aichi-edu.ac.jp/lib/osirase/osiraseold.html##o137>)。このような機会を有効に捉えて、個人で「掘り出し物」の科学史資料を見つけ、少ない量であっても自らオーナーとなるのも楽しいものであり、これをオープンソース化して、書籍情報を多くの人々と共有することは有意義なことである。

個人として科学史研究の発展に貢献するもう 1 つの方法は、日仏科学史資料センターで管理する「人類の共有財産」である半世紀、1 世紀、2 世紀前に出版され現存している「生」の科学史資料を実際に手にとって見るなど、何らかの形で、実際に活用することである。そのような時間の旅に触れる楽しみを持つ人々、つまり活動のよき理解者が 1 人でも多く出てくることが、科学史資料の保護には最も重要なことだからである。

7. パリ第 7 大学との交流の経緯

最後に日仏科学史資料センターの活動をサポートしてもらっている日仏の 2 大学、北九州市立大学とパリ第 7 大学との交流の経緯についても簡潔にまとめ、筆を起きたい。

2004 年夏に北九州市立大学の河野がフランス、モンペリエで開催された国際学会に参加した折に、パリ第 7 大学の François Bouteau 博士からの共同研究（生物の環境応答研究）に着手しないかとの呼びかけに応じて依頼、河野・Bouteau 共著での論文を国際学術誌に発表するなど共同研究実績を重ねてきた。2005 年には、河野にパリ第 7 大学 2005-2006 年度、招聘教授（Professeur Invité）への就任依頼があり、実際には、パリ第 7 大学長による任命と北九州市立大学・国際環境工学部常任委員会からの出張許可により 2005-2006 年度パリ第 7 大学招聘教授として出張したのは 2006 年 3 月 29 日～6 月 3 日までの 2 ヶ月間であった。上述のように同期間中は 38 年ぶりの大学での学生運動によりフランス全土の大学が閉鎖されるなど大学が新たな大きな変革に曝されていることが感じ取れた。この期間にパリ第 7 大学で国際交流を担当する Jean-Pierre Rona 教授よりパリ第 7 大学と北九州市立大学との国際交流協定締結に関する打診あり。以後、文書、メールでの交流・討議および、2 度目（2006-2007 年度）、3 度目（2007-2008 年度）の招聘教授就任を通じて協議を継続してきた。このような経緯から筆者は、近い将来、北九州市立大学とパリ第 7 大学とが姉妹大学となることを期待している。また現在、パリ第 7 大学は、パリ第 1 大学やその他の旧パリ大学系列の大学との再編成を模索しているようである。その時は、新設のソルボンヌ大学と北九州市立大学とも姉妹大学関係となることも期待できよう。このように北九州市立大学とパリの大学間での協力関係がより確実なものとなり、教員と学生（特に大学院生）の交流が盛んに行われるようになる日が来れば、北九州市とパリ市の架け橋として日仏科学史資料センターが果たす役割は、より大きなものになるのではないかと期待している。

以下、交渉および協議の経緯

2006年4月 パリ第7大学で国際交流を担当する Jean-Peierre Rona 教授よりパリ第7大学と北九州市立大学との国際交流協定締結に関する打診あり。「生物」、「化学」、「環境」などのテーマで大学間の協定を結べないかとの打診。

2006年7月 北九州市立大学国際環境工学部・環境科学プロセス工学科における学科会議において同意を得て、国際環境工学部国際交流委員会において協議事項として提案。この旨のパリ第7大学担当者に連絡。

2006年7月 国際教育交流センター会議にも国際環境工学部国際交流委員会への提案の旨を報告、国際環境工学部からの提案があり次第、同センターにおける国際交流担当委員の間で議論をつめる旨を確認。

2006年11月 北九大大学院・河野が、パリ第7大学で国際交流を担当する Jean-Peierre Rona 教授との協議をし、北九大では英文のみを提案し、協定覚書の内容は雛形をもとに自由に議論し、改訂したものを北九大からパリ第7大学に提案し、パリ第7大学において内容を再吟味し最終案を北九大との協議の上、決定する手続きを確認した。

2007年3月 パリ第7大学が使用する長文の協定用フォーマットに関する様々な記載事項が迅速な協定締結に際して問題となった。その後、個々の記載事項にどのように対処するかについて議論を進めた。

2007年10-11月 九州知的クラスター広域化事業の一環として両大学間協定の締結による共同研究の促進に向けて協力をいただけることになった。今後、パリ第7大学からの人材の北九州市立大学への招聘を行い、共同研究と協定とを促進してゆくことを確認。

2007年11-12月 パリ第7大学の Jean-Pierre Rona 教授が、早期の協定締結のために、協定フォーマットの簡素化を提案。この新規フォーマットに基づいて、協定に向けた準備を行う。最終的な文章の整合性を国際教育交流センター会議の国際交流部門で吟味し、同会議で議論する予定。

2008年3-6月 パリ第7大学の Jean-Pierre Rona 教授、François Bouteau 博士をはじめとして、パリ第7大学の研究者が複数回、北九州を訪問し、共同研究の進展と、教員・学生の交流を含めた大学間協定についての直接協議を行う予定。

謝辞

愛知教育大の蔵書に関する情報は、陽川憲氏、福田康朗氏から教えていただきました。

引用文献

- [1] 河野智謙 (2007) 「報告書『パリ第7大学植物学系図書館第3次資料調査経過報告書：移管資料の暫定リスト』」日仏科学史資料センター紀要 1(2): (*in press*)

- [2] 河野智謙 (2007) 「書評：近代科学の源流」 日仏科学史資料センター紀要 1(2): (*in press*)
- [3] 伊藤俊太郎 (2007) 「近代科学の源流」(文庫版)』 日仏科学史資料センター紀要 1(2): (*in press*)
- [4] Pierre Duhem (1913) *Étude sur Léonard da Vinci, troisième tome*, Paris.
- [5] パリ大学. (2007, 11 月 25). Wikipedia, . Retrieved 02:52, 11 月 30, 2007 from <http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E3%83%91%E3%83%AA%E5%A4%A7%E5%AD%A6&oldid=16360583>.
- [6] 渡辺一夫、鈴木力衛 (1961) 「フランス文学案内」(岩波文庫別冊 1) 岩波書店.
- [7] The University Paris Diderot (Paris 7) (<http://www.sigu7.jussieu.fr/>)
- [8] 河野智謙, 陽川憲, 林村, 角野貴志, 蔭西知子(2007) 「創刊のご挨拶」 日仏科学史資料センター紀要 1(1): 1-3.
- [9] 日仏科学史資料センター、URL: <http://www.env.kitakyu-u.ac.jp/ja/cfjhs/>
- [10] Kawano, T. and F. Bouteau (2007) Our current activities: Collection, preservation, Classification, digitalization, translation and re-evaluation of the classical science literatures from Sorbonne libraries. *Bul. Centr. Franc. Jap. Hist. Sci.* 1: 3-9.
- [11] 河野智謙 (2007) 「国内外で進行する科学史資料廃棄の連鎖を食い止めるには？」 日仏科学史資料センター紀要 1(1): 10-12.

- Collections -

コレクション紹介:

Albert Lemée (1929) Dictionnaire descriptif et synonymique des genres de plantes phanérogames Tome I,

Brest, Imprimerie Commerciale et Administrative, Paris

(日仏科学史資料センター登録 Sorbonne collection より)

本書は現在、シリーズ全 8 巻が大変きれいな状態で日仏科学史資料センター（北九州市立大学ひびきのキャンパス内）に所蔵されている（図 1）。今回、その第 1 巻を紹介する。本書の著者である Lemée を IPNI (<http://www.ipni.org/>) で調べたところ、Lemée は種子植物学者で 28 歳という短い生涯であったようである。短い人生ながらも膨大な記載を残すという偉業を成し遂げた Lemée とは、一体どのような人だったのであろうか。

本書は 896 ページからなり、内容は顕花植物 Phanerogam の属について、アルファベット順に紹介されている。第 1 巻は *Aa* 属から *Bursera* 属までが記載されている。記載はフランス語で、1 ページにつき、だいたい 3 属ずつ、それぞれの形態、分布、シノニムについて整理されている。分布に関しては、フランスだけでなく、世界の国が取り上げられている。また、現在の国際植物命名規約では科の学名の語尾は *-aceae* で記載することが定められているが、本書ではすべて *-acées* で記載されているところが興味深い。

本書を Webcat (<http://webcat.nii.ac.jp/>) で調べたところ、日本において大変貴重な資料であることが分かった。日本の植物分類学者の方に、本センター蔵書をぜひ活用していただきたいと強く願う。



図 1、第 1 巻の表紙。

(蔭西知子、北九州市立大学)

- Collections -

コレクション紹介:

В.И. К Е Ф Е Л И et., al.,(1977) РОСТ РАСТЕНИЙ

И ПРИРОДНЫЕ РЕГУЛЯТОРЫ,

ИЗДАТЕЛЬСТВО *НАУКА*, МОСКВА

(日仏科学史資料センター登録 Sorbonne collection より)

僕は、1977年12月生まれである。そんな単純な理由から、蔵書の中から1977年とラベルのついた本を選んだ。1977年は、大学入試センターが設立され、そして小学生の頃に愛読していたコロコロコミックが創刊された年である。

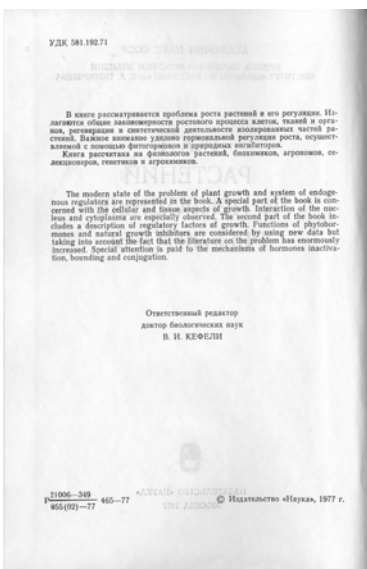
さて、本の紹介だが、キリル文字で記載されており、僕には読むことができない。英語での記載は、ロシア語と両方で記載されている内容紹介の9行と目次のみである。内容紹介から本の内容が植物の生長と内在性の調節因子（植物ホルモン）についてであることが分かった。そして、目次からこの本は3章からなり、1章が生長の基本となる細胞と組織、2章と3章がそれぞれ植物生長調節因子同定の方法論的な研究、植物の生長における植物ホルモンと阻害剤の関与について書かれていることが分かった。英語以外でせめて本のタイトル「РОСТ РАСТЕНИЙ И ПРИРОДНЫЕ РЕГУЛЯТОРЫ」は訳そうと、(大学の図書館に足を運ぶのが面倒だったので) ネット上のロシア語・英語翻訳を利用して見たが、非常に精度が低かった。精度の低い翻訳ではあるが、それを元に推測し、一部の専門用語のロシア語が併記されている岩波生物学辞典第4版で確認した。「生長 植物の」と ПРИРОДНЫЕ 調節」まで訳せた。結局、残された「ПРИРОДНЫЕ」は、図書館にあるロシア語辞典で調べ、「自然の、天然の」だと分かり、タイトルは「植物の生長と自然の調節」となると思われる。目次等から判断すると「植物の生長と生長調節因子」または「植物の生長と植物ホルモン」の方がしっくりくるだろう。

「Dear Simone with best wishes 15 XII 1977 Ella」と手書きの文字がある。この本は、著者の1人 Ellaさんから Simoneさんへ謹呈されたと思われる。著者は全員ロシア人のようだが、ファミリーネーム以外が省略されているので、Ellaさん候補が分かる程度である。

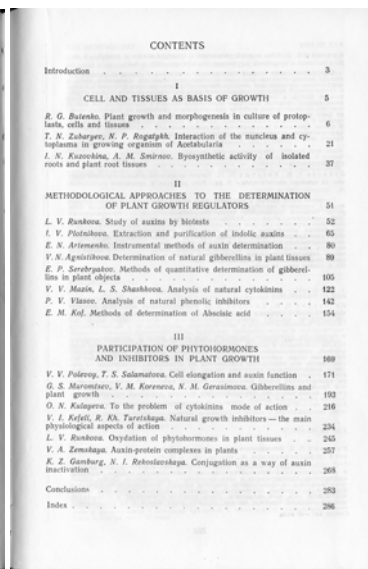
1977 年の世界の情勢は、東西冷戦まっただ中である。冷戦、また現在よりも交通・通信手段が未発達の中での Simoneさんと Ellaさんの交流がどのようなものだったのだろうか。



表紙



内容紹介の頁



目次の頁 (英語)

(角野貴志、九州大学)

- Collections -

コレクション紹介:

**Paul Desroche (1912) Réaction des *Chlamydomonas* aux Agents
Physiques (Étude de physiologie cellulaire),
Schulz, Libraire, Paris**

(日仏科学史資料センター登録 Kawano collection より)

この本では、緑藻綱の鞭毛虫であるクラミドモナス属を用いて細胞の様々な物理刺激に対する反応を観察しています。物理刺激として用いているものは白色光 (強度変化)、単色光 (白、赤、緑、青)、熱、冷却、気温上昇、重力、圧力です。

この本と出会ったのは 1 年前なのですが、フランスに興味があり留学してみたい、そして同じ光からエネルギーを

産み出して生きる繊毛虫について研究している身としては、とても興味深く参考になる一冊となっています。また、およそ 100 年前にこのように広範な

研究がされていたこと、その研究を一冊にまとめていること、またこうして印刷物が現存していること (そしてそれを古本屋で購入できること)、当時の印刷・製本技術などに驚かされました。

印刷した紙を 3 回折り (図 2) 何冊かを束ねて (この本では 10 冊; ページ左下に枚数が記載されている) 糸で綴じて製本するため、中身を読むには裁断しなければいけません。しかし、この本は 1914 年から裁断されることなく現存しているので、中身を読みたいがフランス

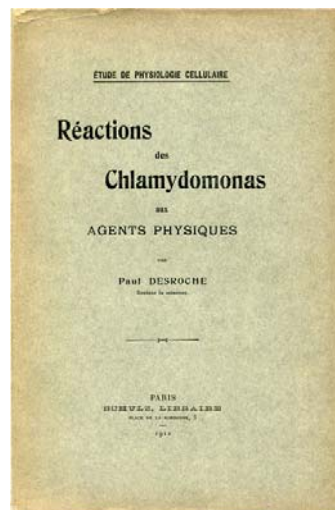


図 1、表紙



図 2、横断面
何故かずらしてある

語で書かれているのでよくわからない勿体無いから...けどやっぱり読みたいでも...とジレンマに陥ります。今のところは袋綴じを覗くようにして我慢しています。

内容は前述したようにクラミドモナスの様々な刺激（光、熱等）に対する反応をまとめたものです。私は現在ミドリゾウリムシの紫外線応答反応について研究しています。限定された紫外線という刺激に対する応答反応だけでも

なかなか上手くいかないのに、光や熱、重力といった様々な刺激に対する反応についてまとめあげた著者の苦勞はとても大きかったらうなと感服しました。

Referenceを見ると仏・独・英と、確認できただけでも3カ国語の文献を引用しています。1912年における文献取り寄せ方法も興味深いのですが、少なくとも3カ国語を読むことができる研究者が沢山いたのかなと思うと非常に感慨深いです。このような研究者になりたいものです。

また、1世紀以上前からクラミドモナスという体長100 μm にも満たない生物について多くの方が研究されているわけですが、まだまだ判明していない部分が山のようにあると思うと生物というものは非常に奥深いなと改めて実感できました。

(唐木千明、北九州市立大学)

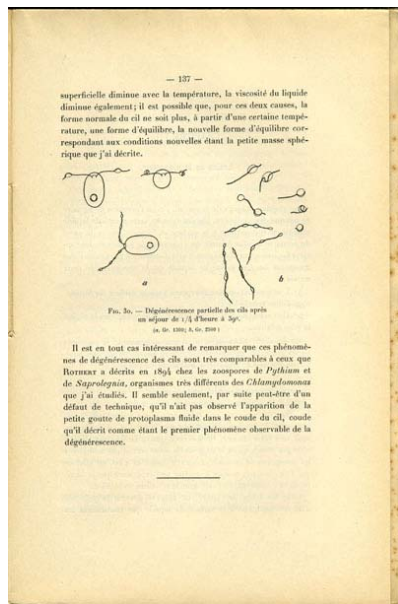


図3、圧力刺激でのスケッチ

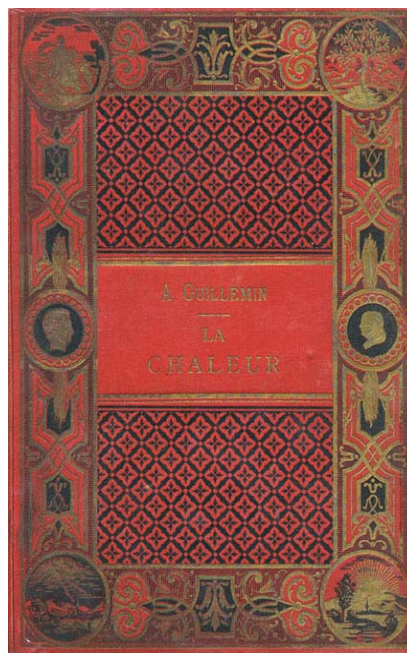
- Collections -

コレクション紹介:

A. Guillemin (1884) La Chaleur, Librairie Hachette et C^{ie}, Paris

(日仏科学史資料センター登録 Yokawa collection より)

本書はパリ市内で行った第二次文献調査の際、セーヌ川沿いの古書販売店にて購入したものである。題を訳すると、"The Heat"、要するに「熱」である。熱に関わる事象について、古典物理学から始まり、化学、生物学、天文学、工学の広範囲に渡って著述されたものである。本書前半は教科書として、熱力学の初学者に向けて、たとえば熱量を測定するために開発された装置についてや、熱のもつ性質などが詳細にスケッチされた版面を用いて分かりやすく解説されている。前半部では各自然科学分野についての章立てがなされている一方、後半全ては熱機関、主に蒸気機関についての解説に始終している。これは書籍が1884年、いわゆる産業革命の最中、もしくは直後に著されたことを物語っている。産業革命を引き起こした要因である蒸気機関の変遷についてざっとおさらいをすると、1698年にセーヴァリがポンプを発明した。この出力は1馬力に相当する。この後に改良型



図、本書表紙には華美な装丁が施されている。

としてニューコメンが10馬力もの装置を考案した。次いでよく知られるワットによる蒸気機関では50馬力もの出力を達成した。本書内で各々の機関の構造を描出しており、さらに、この産業革命期間の日進月歩、より複雑な工業機械の開発競争に伴って熱力学が大いに発展していくダイナミックな様子が本書後半からはよく読みとることができる。

順序は逆になるが、工業関連の記述に加えて、自然科学分野からも興味深い箇所を紹介したい。生物学に関する章で、動物の熱、植物の熱、というものがある。動物については、恒温動物の体温について述べられている。これは容易に想像できるが、植物のパートでは面白いことに、恐らく普段はあまり聞き慣れないであろう発熱植物について触れられてい

des combinaisons chimiques qu'un animal quelconque doit toute la chaleur dont il a besoin pour maintenir la température nécessaire à son existence.

§ 4. CHALEUR PRODUITE PAR LES VÉGÉTAUX.

C'est dans l'acte de la germination qu'on a constaté le plus anciennement la production de chaleur chez les végétaux. On

sait que les brasseurs, pour la préparation du *malt*, font subir aux grains d'orge, préalablement imbibés d'eau et déposés en couches plus ou moins épaisses sur le sol bitumé de salles nommées *germoirs*, un commencement de germination. Pendant cette opération, les tas de grains s'échauffent spontanément, et la chaleur est d'autant plus forte que la germination est plus rapide. Le même phénomène a été étudié par Gœppert sur les graines de divers végétaux, blé, avoine, maïs, pois et chanvre, etc. En s'en tenant à la première phase de la germination, afin d'éviter la cause d'erreur provenant de la moisissure, ce savant constata les excès suivants de température des graines sur l'atmosphère : 11°,25 à 12°,50 pour le blé et l'avoine, 6°,25 à 7°,50 pour le maïs, 7°,5 à 8°,5

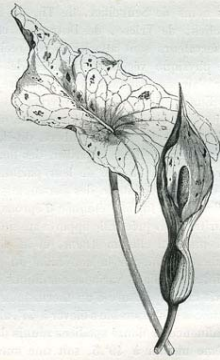


Fig. 184. — *Arum maculatum*.

図、発熱植物である、*Arum Maculatum* のスケッチ。

自然科学に関する書籍へ挿絵を描いていたという情報も拾うことができた。当時の研究・著作活動や人的交流を浮き彫りにする目的で、こういった挿絵に注目した自然科学書籍の研究は、興味深いものになるのではなかろうか。

最後に余談になるが、冒頭にも述べたとおり本書はセーヌ川沿いで購入したものである。価格は15ユーロ（約2500円）であった。先日、イギリスの大手古書検索ページで市場調査を行ったところ、100ポンド（約20000円）もの値段が設定されていた。安価で手に入れられたことと、書物の価値を知ることができたことで嬉しく感じたとともに、地道な文献収集作業（特に古書店）の大切さを痛感させられた。どんな書物との縁が転がっているか分からない。

(陽川憲、北九州市立大学)

た。CHALEUR DES VÉGÉTAUX という章で *Arum* 属というサトイモの仲間が発熱する現象について述べられている。この生化学的な発熱メカニズムについては近年明らかになってきたものの、当時は「熱」という括りでこういった現象が記載されることについて、著作物への丁寧な取り組みが窺える。

本書中に描かれている版画は精緻で眺めているだけでもとても楽しい。実験に用いる無機質な機械概観スケッチというよりも、一つ一つが実験室の雰囲気をも同時に醸し出しているように芸術味が備わっている（実際に描かれているものもある）。全頁を通しての挿絵内には数名の署名が入っており、一番多く見られた C. LAPLANTE という名をインターネットを利用して簡単に調査してみた。すると、現代にもその版画家の作品がポスターとして発売されていることが分かった。また、他の

-Book Review-

伊藤俊太郎、「近代科学の源流」(文庫版)、全 397 頁、中央公論新社(中公文庫)、2007 年 9 月 25 日発行

本書は、「中央公論社より 1978 年 10 月に刊行された自然選書「近代科学の源流」を文庫化にあたり校訂したもの」なのだそうであるが、評者は不勉強にも(科学史に関心を持ったのが最近ということもあり)中央公論新社からでたこの文庫本ではじめて本書の内容に触れた。

本書では、「今日、一般に中世が見直されている。ルネサンスに近代の起源をおき、ここにヨーロッパの栄光の発端をおく考え方は、今や再検討を迫られている」という出だしで、ドイツの人文学者 Christoph Keller がはじめたといわれる、ギリシャ文化の消失と復活のみ標準を合わせた「古代—中世—近代」という三分法がもたらした中世蔑視観に挑戦する一連の議論、特に西洋科学の源流としての中世に関する議論を始めている。その「再検討」の中身は、評者にとって非常に新鮮に聞こえた。筆者は、中世は決して暗黒ではなく、むしろ西欧文化の骨組みと礎石が形成された時期であり、この系譜の考えを採用することで初めて「ヨーロッパ文明」をギリシャ・ローマ文明の単なる受容者に尽きない、ひとつのまとまりを持った個性ある文明として捉えることが出来るとする。またそれによりヨーロッパ文明を世界の中のひとつの文明として相対化することも可能になる。文庫版の解説者である金子務の言葉を借りると、科学史の碩学が史実を巨視・微視的に捉え、多くの重要文献からアプローチすることで、ラテン世界とギリシャ文明の媒介者であり独創性を付加したキーファクターでもあるアラビア世界を中心に、4 世紀から 14 世紀にかけての「忘れられた」千年間の中世科学の空隙を解明したのが本書である。

本書の中で、日仏科学史資料センター紀要の読者にとって重要と思われる記述を抜粋する。本書では、科学史研究において最も重要な書籍のひとつとして、ボルドー大学教授で物理学と哲学思想において優れた業績を残したピエール・デュエム (Pierre Duhem) による著書「レオナルド・ダ・ヴィンチの研究 (副題: レオナルドが読んだ人々とレオナルドを読んだ人々)」(1906~1913 に刊行された三巻) を取り上げ、「中世科学研究は、この書の刺戟によって勃興したといっても過言ではない」と述べている。デュエムは、1916 年没なので、生涯をかけた研究の集大成が上掲書であるといえるかもしれない。デュエムは、この上掲書 (第三巻序文) の中で「アリストテレス自然学を近代物理学に置き換えることは、長期にわたる尋常ならざる努力の結果として生じたのである。この努力は中世大学のうち

では最も光輝あるパリ大学によって支えられていた。そうだとすれば、なぜパリ人はこの事実を誇らないのか。またこの最も優れた唱道者はピカルディ人ジャン・ビュリダン **Jean Buridan** やノルマンディー人ニコル・オレーム **Nicole Oresme** であった。そうだとすれば、なぜフランス人はこのことに当然の自負を感じないのか。さらにそれは、正統カトリシズムの真の擁護者パリ大学が、アリストテレス的・新プラトンの異端に対してなした不撓不屈の闘いから生じた。とすれば、なぜキリスト教徒はこの神の恵みに感謝しないのか」と述べている。フランス人の愛国心による誇張もあり割り引いて聞かなければいけないであろうが、多分に真実を含む記述であろう。日仏科学史資料センターが主として扱う（今後収集を進める予定の）科学史資料は、パリ大学（ソルボンヌ大学）の遺産として残された資料が中心となるが、本書を読んで目から鱗が落ちる思いがした。今後の資料収集活動とその保護活動がもつ意義は思いのほか大きいかもしれない。

(評者：河野智謙、北九州市立大学)

-Book Review-

渡辺一夫、鈴木力衛、「増補フランス文学案内」、全 282 頁(+45 頁の索引)、岩波書店(岩波文庫別冊①)、1961 年 10 月発行(1990 年 3 月増補版)

本書は、タイトルが示す通りフランス文学に関する案内書であるが、本書の中で扱われている歴々たるフランス文学者の中に科学者や科学者の系譜に入ると考えられる哲学者らの名が散見されるのに興味を持ち、新刊書ではないがこの書評欄で取り上げることにした。「国王の布告だとか、条約文だとか、宗教的な短い詩とかいったたぐいのものは文学作品と呼ぶには、いささか内容が貧しすぎる (p.12)」とあるが、法律家が自分の専門について書いた書(モンテスキューの『法の精神 (L'Esprit de lois)』他)などは文学作品としてみなされているようで、評者には、どこまでが文学以外の領域でどこからが文学なのかは判別がつかない。それは科学分野の作品でも同様の印象を持った。文学であれ、科学であれ、アリストテレス (Aristote, p.85, p.274) の哲学の系譜上に位置するのであるから、線引きが困難であるのは当然といえば当然かも知れない。本書では、著者らの観点からどのように線引きが行われているのか、文学の門外漢としては興味のあるところである。評者から見ても明らかに文学(児童文学)に含まれるジャン・アンリ・ファーブル(Jean-Henri Fabre, 1823-1915)には、残念ながら言及が無いが、博物学者で『博物誌 (L'encyclopédie)』を記したビュフォン。(Georges-Louis Leclerc Buffon, 1707-1788) は、本書の中で「文学の中に博物学(自然科学)を導入した人としてビュフォンの名があげられます。(p.124)」と絶賛されている。さて、文学の立場から、モンテスキューの『法の精神』と同様に高く評価されるべきであるとの旨の論が展開されるなど (p.125) 文学としての評価は高い。ラテン語訳よりも先にフランス語で記述した点が「フランス文学」として評価されているようである。確かにビュフォンの業績は大きいので、多方面から評価されているということは、自然科学の分野に身をおく評者としてもうれしい限りである。『博物誌』を記した(文学的)功績意外にも、王立植物園をイギリスのキューガーデンと並ぶ世界的な博物学の殿堂にまで発展させた功績(その過程で、キュビエやラマルクなど有能な学者を任用し、世界的な研究の中心を作り上げた功績は言うまでもない)は、特記すべきである。フランス語で記された博物学における記述が、フランス文学であるならば、ビュフォンに続く植物園の後輩達が残したフランス語の著述(何れも学術的に一流の仕事)は、文学から見ても

一流の仕事であるのかもしれない。デカルト (René Descartes, 1596-1650) の「方法序説 (Discours de la methodé)」もフランス文学作品として取り上げられている (p.79-p.80)、物理学者のパスカル (Blaise Pascal, 1623-1662) も「田舎の友への手紙 (Les Provinciales – Lettres écrites à un provincial)」という文学作品の作者として登場する。実際には、それらの手紙は、まさしく「手紙」であって、後世になり「作品」と呼ばれているに過ぎない (つまり本人は知らない) という事実も面白い。

以上のように、フランス文学という切り口であってもであっても、フランスでの科学の発展の足跡を垣間見ることが出来るし、同じ登場人物の別の顔が見て取れるところが面白い。また本書は、フランスという国を文化の成立ちから理解する上でも良いガイドとなる良書である。巻末の索引が非常に便利である点も強調しておきたい。

(評者：河野智謙、北九州市立大学)

- Member's Voice -

「日仏科学史資料センター紀要」創刊号を読んで

はじめに、日仏科学史資料センター紀要創刊号発行おめでとうございます。

この度、私の友人である陽川憲氏が編集委員を務める「日仏科学史資料センター紀要」創刊号が発行された。私もこの記念すべき創刊号を一読する機会を得ることができたので、僭越ながらここに一言添えさせていただきたいと思う。

創刊号 Message “国内外で進行する科学史資料破棄の連鎖を食い止めるには？”を一読し、学生時代に研究のため漁っていた資料の中にももしかしてそのような資料が存在していたのではないかということ思い出した。

教官の部屋の本棚にある資料を眺めていると背表紙がぼろぼろになった一冊の地球科学(地質学だったような)の本があった。教官が学生時代に入手したときからすでに古本の状態であったとのことである。活字は旧字体、当時の私はただ古い本という認識でしかなかったが、教官からその書籍は現在も活用していると伺った。

個人での書籍の所有にはこのように物に対する愛着が生まれる。書籍に対する愛着、そして興味を持つことで「物の価値が分かる人達」になるのではないか。特に最近ではインターネットで本が購入でき、更には閲覧も可能になっている。こうした状況では自分の足で本を探し購入するということがなくなり、書籍に対する愛着の薄れにも拍車がかかっているように思われる。

私は去年、第 48 次日本南極地域観測隊(夏隊・地圏担当)として南極に行く機会があった。日本の南極観測は私の隊で 50 周年を迎え、そのような節目の年に参加できたという幸運にも恵まれた。

日本の南極観測隊は南極観測船「しらせ」で南極大陸を目指す。「しらせ」は「宗谷」「ふじ」に継ぐ 3 代目の南極観測船であり、2008 年に退役することが決定している。先代の南極観測船は東京・名古屋でそれぞれ保存され、一般公開も行われているが、「しらせ」は退役後の扱いは決まっておらず、廃船・スクラップにされる可能性が高い(2007 年 11 月末現在)。日本の南極観測隊は 50 年の歴史の中、オゾンホールが発見・大量の隕石の発見・オーロラ観測・3000m 以上に及ぶ氷床コアの採取、など数々の研究成果を残しており、これらの研究成果には「しらせ」をはじめ、歴代の南極観測船の存在が必要不可欠であった。「しらせ」を管理・保存するには莫大な維持費が必要ではあろう(廃船・スクラップにされる主な原因が高額な維持費の問題である)。しかし、南極での数々の科学的発見、そして南極観測そのものの根幹を担ってきた船もひとつの科学史資料と

して国など公的機関が積極的に管理・保存に取り組み、廃船・スクラップにされないことを切に願うばかりである。

当初の書籍の話から逸脱してしまったが、科学史資料の破棄・喪失を食い止めるという「日仏科学史資料センター」の活動に、古書店の多い東京という地の利を活かし私も微力ながら協力していきたい所存である。

(藤原 明 (株)ジオシス・第48次日本南極地域観測隊員)

-News-

以下に、日仏科学史資料センターの運営および活動状況に関する情報、議事録、決定事項等を掲載します。

(本ニュース欄の編集は陽川編集委員が担当)

パリ第7大学研究者の来日（北九州）のお知らせ

報告者：河野智謙（日仏科学史資料センター、北九州市立大学）

パリ第7大学生体膜電気生理学研究室の François Bouteau 博士が平成20年3月上旬に来日予定です。北九州学研都市で開催予定の北九州市立大学（上江洲一也教授、森田洋准教授、河野）、米国ベンチャー企業 E-Membrane 者、(英) クランフィールド大学 (Leon Terry 博士) との九州知的クラスター広域化事業に関する合同研究ワークショップ（日程調整中）に参加される予定です。この機会を活用して北九州学研都市内のレストラン等で、Bouteau 博士を囲むサイエンスカフェ（サイエンスバー？）を開催したいと思います。François Bouteau 博士は、日仏科学史資料センターの学術アドバイザーであり、パリ拠点での資料管理の責任者でもあります。生物物理学者である博士の専門を活かした、科学史に対する取り組みなど雑談の中で披露していただきたいと思います。各イベントの正式な日時・場所などの詳細が決まり次第、本紀要のニュース欄（あるいは、会員宛の電子メール）で報告いたします。



パリ市5区で開催されたサイエンスバーでの François Bouteau 博士。

新規・海外学術アドバイザーの選任について

報告者：河野智謙（日仏科学史資料センター、北九州市立大学）

パリ第7大学生体膜電気生理学研究室で助手を勤められている Dr. Arnoud Lehner と Dr. Patrice Meimoun の2名に新たに日仏科学史資料センターの学術アドバイザーに加わっていただくようお願いし、快諾いただきましたので、報告いたします。Dr. Arnoud Lehner には、日仏科学史資料センターのパリでの活動を紹介するためのフランス語でのホームページ運営を担当していただく予定です。このホームページは、北九州に拠点を置く日仏科学史資料センターのホームページと互いにリンクしあうものになる予定です。



写真左 Dr. Arnoud Lehner、右 Dr. Patrice Meimoun。サイエンスバーでの様子。

サイエンスカフェ視察報告

報告者：陽川 憲（日仏科学史資料センター、北九州市立大学）

2007年11月10日、我々センターメンバー（総勢7名）は、福岡県北九州学術研究都市で開催された、ひびきの祭と称する学園祭内行事の一環である、サイエンスカフェへと足を運びました。会場は、Art cafe というカフェレストランを貸し切って準備されています。サイエンスカフェと呼ばれるものの趣旨は、気鋭の研究者を招き、市民に理解しやすい平易な言語を使用してコーヒーなどを飲

みながら気軽にお話をする、というものです。今回我々が参加した「第1回サイエンスカフェひびきの」には、映像と音楽とコンピュータを組み合わせて、誰もが直感で楽器を演奏することが可能となるシステムの開発を行っている、九州工業大学講師、有限会社しくみデザイン取締役の中村俊介先生が演者をされていました。それはコンピュータを駆使した楽しいシステムで、コンピュータに接続されたカメラが、それに写った人の姿（自分自身）の動きを検出して、あらかじめソフトウェアで用意されている音源を鳴らす、というもの



写真：中村俊介先生によるスクリーンを用いた開発システム実演紹介の様子。



写真：中村俊介先生と河野理事長、陽川理事のシリーズショット。

です。私も実際に体験してみました。また、画像検出の基本技術についての解説もあり、興味深いものでした。他の参加者からも活発に質問、コメントが飛び交い、市民の方々の科学技術への関心深さを感じることができました。我々も来年2月にサイエンスカフェの主権を企画しておりますが、今回の視察を参考に、参加される方々に有意義な時間を過ごして頂けるように取り組んでいく所感であります。

報告書 「パリ第 7 大学植物学系図書館第 3 次資料調査経過報告書： 移管資料の暫定リスト」

報告者：河野智謙（日仏科学史資料センター、北九州市立大学大学院国際環境工学研究科）

日仏科学史資料センター関係者および同センター紀要読者の皆様にご報告します。日仏科学史資料センター長（仮）を務めます、河野です。平成 19 年 11 月 20 日からパリ第 7 大学の招聘により 2 ヶ月間パリに滞在しております。これまでも同大学の科学アドバイザーである Dr. Francois Bouteau と Prof. Jean-Pierre Rona の協力のもと、今年の 5 月（同大学招聘教授として単独で実施）と 7 月（陽川憲理事と河野の 2 名で実施）の計 2 回、パリ第 7 大の植物学系図書館の科学史資料の調査を行いました。今回の滞在でも、引き続き、第 3 次パリ第 7 大の植物学系図書館の調査を実施しております。本原稿を執筆時点（平成 19 年 12 月 13 日）ではまだ調査を終えていませんが、紀要の第 1 巻第 2 号の原稿締め切りに合わせて途中経過報告とさせていただきます。植物学系図書館は、パリ第 7 大学のキャンパスが。現在のパリ市中心部（5 区、カルティエ・ラタン地区）ジュシュー（Jussieu）から 13 区のトルビアック（Tolbiac）地区に移転するため、あと 10 日程度で閉鎖され、解体工事が始まりますのでこれが最後の調査になります（本当は部屋ごと持ち帰ってゆっくりと分類をしたいところです）。

今日は途中経過報告として今回の 3 次調査の前半戦で既に入手した書籍および文献のリストを文末に示します。今回の調査の最大の成果は、1815 年刊行のラマルク（あの進化論の de Lamarck）とデ・カンデロ（植物の分類関係者で知らない人はいない de Candello）の共著による Flore Française の 7 冊です（装丁の違う重複が含まれる）。北九州の日仏科学史資料センターに持って帰るかどうか悩んでいるため、ひとまず在パリ・ソルボンヌコレクションにリストしています。このシリーズの最後の巻は、共著ではなくデ・カンデロの単著となっているようです。これは大きな収穫でした。本センターの学術アドバイザーでもある Jean-Pierre Rona 教授と一緒に開けた金庫の中に入っていました（誰かが保管したのでしょうが、あと数日忘れられたままであったなら破棄されるどころでした）。締め切りまでに文章が送れるかどうかわかりませんが、これらを紀要の 1 巻の第 2 号か 2 巻の 1 号で新設予定のコレクション紹介欄で紹介できればと考えています（締め切りに間に合ったかどうかは、実際に紀要第 2 号が読者の手元に届く時点では分かっているでしょう）。

もう1つの収穫は、Hermann Muller 著の英訳本でチャールズ・ダーウィンが前書きを書いた本です(1883年刊)。ダーウィンが他人の本の宣伝に何と書いたか興味のあるところです。これは、迷わず持ち帰ってセンターで活用したいと考えています。ドイツ人が書いてイギリス人が英訳してパリに寄贈された本が125年かけて日本にやってくるというのは不思議な気がします。これもまた締め切りまでに文章が送れるかどうかわかりませんが、紀要の第2号で新設予定のコレクション紹介欄で紹介できればと考えています。

ラマルク、ダーウィンと来たのもう一人、遺伝学論争や進化論争で科学界を賑わした人物、リュセンコ(T. Lyssenko)のAgrobiologie(1953)も入手できました。この本は、フランス語なのにモスクワで印刷されているところが面白いと思います。ロシア語版が出たのが1942年なので原著が出てから11年後に仏訳版が出版されたことが分かります。リュセンコの綴りも一般に英語の著書では、エスは1つなのに対し、仏語版では、エスが二つ並んでいます。「ゼ」ではなく「セ」と読んで欲しい工夫なのでしょう。

その他の本はあまり古くは無いのですが、パリ大学からでた植物分野の学位論文を可能な限り網羅しようと思っています。前回までの調査で1800年代後半と1910年頃までの植物関連の学位論文は大方、北九州に移管できたと考えていましたが、幸いにも今回の調査でさらに数点を追加することが出来ました。学位論文に関しては、もう少し増えます。既に確保したけれどもこのレポートを書いている時点(平成19年12月13日)でタイトルを記録できていない未整理の博士学位論文が、約500点あります。これ以外に、あと100点程度は増える予定です。植物分野だけでこんなにたくさん博士がいたのかと感慨深くなりました(120年間の累計なので年に5~6名程度とすると多くは無いかもかもしれません)。昔の博士論文はA5版くらいで厚さも大したことがないのですが、最近の論文は、コンピュータで論文を書く習慣が出現したせいでいくらでもページを増やせるようになったし、出版社や印刷屋を通さなくてもプリントと製本ができる世の中になったので、ここ20~30年のA4版の論文はどれも電話帳並みの厚さがあって、こういった新しいものの保管が結構大変です。

これだけの量の資料を短期間のうちに整理したり、輸送したりすることは不可能なので、Dr. Bouteauのご好意により、パリ第7大学ジュシューキャンパス内に仮の資料整理用の1室を確保しました(日仏科学史資料センターのパリオフィスです。これは次回詳しく報告します)。しかも、閉鎖される植物学系図書館に隣接しているので作業が非常に楽になりました。幸いにも、この部屋をこれから2年間は利用できるのもので、今後の資料整理になんとか目処が立ったといえるかと思えます。日仏科学史資料センター会員の平松拓也君が1月にパリに来る予定なので、一緒に部屋の掃除や資料の整理をしたいと勝手に考えています。

あと、大学近くの古本屋で買った1907年版のファーブル昆虫記第10巻と1894年のカビの本の二冊も河野コレクションに追加しています。それと滞在中のアパートの近所の骨董屋にBuffonの原著が並んでいるのを見つけましたが、まだ怖くて店の中には入っていません。1700年台の本を一冊くらいは欲しいという欲も出てきますが、一体いくらすることや

ら。ちなみに上の 2 冊は合わせて 40 ユーロくらいでした。Buffon の原著なら数百ユーロ
かもしれません（古書店じゃなくて骨董屋にある時点で高いことが想像できます）。陽川理
事からの私信によると、7 月の調査時に個人的に古書店で 15 ユーロで購入した 19 世紀の
書籍が、ロンドンの某古書店のウェブサイト上で 100 ポンドで取引されていたとのこと
（今号のコレクション紹介欄で報告されているようです）、陽川理事は、良い眼鏡を持って
いるようです。こういう人材は将来、大きく伸びるのではないかと勝手に考えています。

雑談も混じってしまいましたが、取り急ぎ、近況報告でした。

以下、第 3 次調査による登録文献リストへの追加分（ひとまずタイトル入力を
終えた約 200 件を報告します；未整理なので書籍と学位論文が混在しています）

在パリ・ソルボンヌコレクションへの追加（場合によっては北九州に移管）

- [1815] **de Lamarck et de Candolle** (1815) Flore Française, ou Descriptions succinctes de toutes
les plantes qui croissent naturellement en France, Troisième Édition, Tome Premier (Vol.
I), Chez Desray, Libraire, Paris.
- [1815] **de Lamarck et de Candolle** (1815) Flore Française, ou Descriptions succinctes de toutes
les plantes qui croissent naturellement en France, Troisième Édition, Tome Premier
(Méthode Analytique, Première Partie), Chez Desray, Libraire, Paris.
- [1815] **de Lamarck et de Candolle** (1815) Flore Française, ou Descriptions succinctes de toutes
les plantes qui croissent naturellement en France, Troisième Édition, Tome Second (Vol.
II), Chez Desray, Libraire, Paris.
- [1815] **de Lamarck et de Candolle** (1815) Flore Française, ou Descriptions succinctes de toutes
les plantes qui croissent naturellement en France, Troisième Édition, Tome Troisième
(Vol. III), Chez Desray, Libraire, Paris.
- [1815] **de Lamarck et de Candolle** (1815) Flore Française, ou Descriptions succinctes de toutes
les plantes qui croissent naturellement en France, Troisième Édition, Tome Quatrième
seconde Partie (Vol. V), Chez Desray, Libraire, Paris. (コピー 1)
- [1815] **de Lamarck et de Candolle** (1815) Flore Française, ou Descriptions succinctes de toutes
les plantes qui croissent naturellement en France, Troisième Édition, Tome Quatrième
seconde Partie (Vol. V), Chez Desray, Libraire, Paris. (コピー 2)
- [1815] **de Candolle** (1815) Flore Française, ou Descriptions succinctes de toutes les plantes qui
croissent naturellement en France, Troisième Édition, Tome Cinquième, ou sixième
Volume, Chez Desray, Libraire, Paris.

在北九州ソルボンヌコレクション (2ヶ月を目処に北九州に移管予定)

- [1883] Hermann Müller (1883) Fertilisation of flowers. Macmillan and Co., London. (translated and edited by D'arcy W. Thompson ; **with a preface by Charles Darwin**)
- [1883] M. Fremy (1883) Encyclopédie Chimique. Dunod, Paris.
- [1892] Paul-Émile Citerne (1892) Berbéridées et érythrospermées. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Paul Dupont, Paris.
- [1895] Edmond Gain (1895) Recherches sur le rôle physiologique de l'eau dans la végétation. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1907] Paul Becquerel (1907). Recherches sur la vie latente des graines. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1907] Raoul Combes (1907) Recherches sur la vie latente des graines. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1910] Raoul Combes (1910) Détermination des intensité lumineuses optima, pur les végétaux, aux divers stades du développement. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1911] Leclerc du Sablon (1911) Traité de physiologie végétale et agricole. Librairie J.-B. Baillière et Fils, Paris.
- [1913] Friedrich Czapek (1913) Biochemie der Pflanzen. Verlag von Gustav Fischer, Jena.
- [1913] Hans Molisch (1913) Mikrochemie der Pflanze. Verlag von Gustav Fischer, Jena.
- [1914] W. Bateson (1914) Mendels vererbungstheorien. Druck und verlag von B. G. Teubner, Leipzig und Berlin.
- [1915] Lucien Plantefol (1915) Le Crocysporium torulosum Bonorden est une forme végétative d'un champignon Basidomycète. Mémoire présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour l'obtention du diplôme d'études supérieures (Botanique), Imprimerie Nemourienne, Henri Bouloy, Nemours. (**後にパリ大学理学部植物学教授**)
- [1917] Robert Chodat (1917) La biologie des plantes. Les plantes aquatiques. Librairie J.-B. Baillière et Fils, Paris ; Librairie Payot, Lausanne.
- [1918] Hugh Maclean (1918) Lecthin and allied substances. The lipins. Longmans, Green and Co., London.

- [1920] Arthur Meyer (1920) Morphologische und physiologische analyse der zelle der pflanzen und tiere. Verlag von Gustav Fischer, Jena.
- [1923] W. Benecke und L. Jost (1923) Pflanzenphysiologie. Band II: Formwechsel und Ortwechsel (von L. Jost). Verlag von Gustav Fischer, Jena.
- [1925] J. B. Leathes and H. S. Raper (1925) The fats. Longmans, Green and Co., London. (著者直筆のメモあり)
- [1926] E.F. Terroine et H. Colin (1926) Données numériques de biologie et de physiologie et chimie végétales. Gauthier-Villars et C^{ie}, Paris ; The Cambridge University Press, Cambridge ; University of Chicago Press, Chicago.
- [1928] Edmund B. Wilson (1928) The cell in development and heredity (third edition with corrections). The Macmillan Company, New York.
- [1930] E.F. Terroine et M.-M. Janot (1930) Données numériques de biologie. Gauthier-Villars et C^{ie}, Paris; McGraw-Hill Book company Inc., New York.
- [1930] Pierre Chouard (1930) Types de développement de l'appareil végétatif chez les Scillées. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1931] Mme Georgette Levy (1931) La présence, la répartition et le rôle de l'aluminium chez les végétaux. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le titre de docteur de l'Université (Mention Sciences), Paris.
- [1932] Albert Cr é pin (1932) Influence de l'acidité sur la nutrition minérale du «Sterigmatocystis nigra». Imprimerie Luis Clercx, Paris.
- [1932] Otto Meyerhof (1932) Ichimie de la contraction musculaire. (Traduit de l'allemand d'après un texte spécialement revu par l'auteur e annoté par L. Genevois.). Delmas Éditeur, Bordeaux/ Hermann and C^{ie} Éditeurs, Paris.
- [1933] Albert Demolon et Désiré Leroux (1933) Guide pour l' étude expérimentale du sol. Gauthier-Villars et C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1933] Gary N. Calkins (1933) The biology of the protozoa. Baillière tindall & Cox, London.
- [1934] E. Jørgensen (1934) Norges Levermoser (Bergens Museum Skrifter Nr. 16). A.S. John Gries Boktrykkeri, Bergen.
- [1935] René Audubert (1935) I. Propriétés electrochimiques des proteines., Actualités Scientifiques et Industrielles 189 Exposéée d'électrochimie théorique (direction, René Audubert). Hermann & C^{le}, Éditeurs, Paris.
- [1936] J. Lovallay (1936) I. Applications de la 8-hydroxyquinoléine à l'analyse biologique et agricole (Magnésium, Fer, Cuivre)., Actualités Scientifiques et Industrielles 419 Chimie Agricole (direction, Maurice Javillier). Hermann & C^{le}, Éditeurs, Paris.

- [1936] J. Lovallay (1936) Le magnésium dans les terres Arables. Phénomènes d'échanges des bases. Recherches sur le magnésium échangeable., Actualités Scientifiques et Industrielles 421 Chimie Agricole (direction, Maurice Javillier). Hermann & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1936] Marin Molliard (1936) Œuvres Scientifiques, Les Soins D'Un Groupe d'Élèves et D'Ami, Paris
- [1937] Hilda Drabble (1937) Plant Ecology. Edward Arnold and Co., London.
- [1937] Jean Feldmann (1937) 1^{re} These.- Recherches sur la végétation marine de la Méditerranée. La Côte des Albères. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie Wolf, Rouen.
- [1937] Jean Feldmann (1937) 2^e These.- Les Cyanophycées, Chlorophycées et Phéophycées de la Côte des Albères. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie Wolf, Rouen.
- [1937] M.-Th.Gertrude (1937) Action du milieu extérieur sur le métabolisme végétal. Métabolisme et Morphogenèse en milieu aquatique. Librairie Générale de l'Enseignement, Paris.
- [1937] Madeleine Fourcroy (1937) Influence de divers traumatismes sur la structure des organes végétaux a évolution vascularire complète. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1937] R. J. Gautheret (1937) La Culture des tissus végétaux. Son état actuel, compraison avec la culture des tissus animaux., Actualités Scientifiques et Industrielles 554 cytologie et cytophysiologie Végétales (expoés publiés sous la direction de M. Guilliermond., I. Hermann & Cie, Éditeurs, Paris.
- [1939] H. Stehlé (1939) Flore Descriptive des Antilles Françaises. Tome I. Les orchidales. Imprimerie du Gouvernement., Fort-de-France.
- [1939] René J. L. Moineau (1939) L'Aile battante. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le titre de docteur de l'Université de Paris, Office Français du Livre, Paris.
- [1940] André Tercinet (1940) Action de l'hyposulfite double d'argent et de sodium sur quelques alcaloïdes. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le Title de docteur l'Université, Societé Anonyme de L'Imprimerie A. Rey, Lyon.
- [1940] Chaouki Adra (1940) Étude sérologique et chimique de certains composés arsenicaux envisagés comme antigènes. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le titre de docteur de l'Université, Librairie E. Le François, Paris.

- [1940] Georges Antoine (1940) Contribution à l'étude de certaines formes de la silice dans les tissus animaux sérologique et chimique de certains composés arsenicaux envisagés comme antigènes. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Jouve & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1940] Henri Berrier (1940) Contribution à l'étude de substances du type auxinique dans le règne animal. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles. Editions du Bulletin Biologique de la France et de la Belgique, Paris.
- [1940] J. Ségal (1940) Le Mécanisme de la vision en lumière intermittente. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le Title de docteur l'Université, Presses Universitaires de France, Paris.
- [1940] Lida Levina (1940) Relation entre osmose et imhibition étudiée sur des tissus végétaux. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès-sciences naturelles, Lons-Le-Saunier, Paris.
- [1940] Marguerite Lwoff (1940) Recherches sur le pouvoir de synthèse de flagellés trypanosomides. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès-sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1940] Milios Jean (1940) Contribution à l'étude des laines de la Grèce. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le titre d'ingénieur-Docteur, Amédée Legrand, Éditeur, Paris.
- [1940] Paul-Alphonse Ardouin (1940). Contribution à l'étude de la chaîne des osselets de l'ouïe chez les mammifères placentaires. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimeries Delmas, Bordeaux.
- [1940] René Moricard (1940) Facteur hormonaux et cytoplasmiques de la division nucléaire. Méiose et gonadotrophines. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Laboratoire D'Évolution des Êtres Organisés, Paris. (表紙のみ)
- [1941] Albert Lemée (1941) dictionnaire descriptif et synonymique des genre de plantes phanérogames. Tome VIIIa Plante monocotylédones. Brest.
- [1941] Georges Bouvrain (1941) Recherches contogéniques sur les Angiospermes dicotylédones. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie R. Foulon, Paris.

- [1942] Françoise Laborey (1942) Études expérimentales sur les courbes de poids d'*Aspergillus niger* V. Tgh. En fonction de la composition du milieu nutritif. Études particulière du coefficient d'action du magnétisme. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie Luis Bellenand et Fils, Fontenay-Aux-Roses (Seine).
- [1942] V. Lathouwers (1942) Manuel de l'amélioration des plantes cultivées Tome II. L'amélioration de froment (Cytologie, Morphologie, Physiologie, Génétique, Phylogénie) Bibliothèque Agronomique Belge, Librairie Agricole, Paris/ Jules Duculot, Gembloux.
- [1943] W. R. Bloor (1943) Biochemistry of the fatty acids and their compounds, the lipids. Reinhold Publication corporation, New York.
- [1944] Henri Geslin (1944) Étude des lois de croissance d'une plante en fonction des facteurs du climat. (température et radiation solaire) Contribution à l'étude du climat du blé. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Montpellier pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie Aristide Quillet, Montpellier.
- [1944] Marc Meitès (1944) Action de l'eau et du benzène sur la structure de la cellule végétale (contribution à l'étude physiologique et chimique de la cellule). Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Montpellier pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie Aristide Quillet, Montpellier.
- [1944] Raymond Chaminade (1944). Les formes du phosphore dans le sol. Nature et rôle des complexes phospho-humiques. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Dunod, Paris.
- [1947] R. A. Fisher (translated by Ivan Bertrand) (1947) Les méthodes statistiques adaptées à la recherche scientifique. Presses Universitaires de France, Paris.
- [1949] - (1949) Le rôle des Anaérobies dans la nature. II^e congrès International des Microbiologistes de Langue Française, Bruxelles, 23-27 Mai 1949 (Publication ayant bénéficié subvention de l'U.N.E.S.C.O.). Union Internationale des Sciences Biologique Série B (Colloques), Secrétariat général de l'U.I.S.B., Paris.
- [1949] Samuel Cate Prescott and Cecil Gordon Dunn (1949) Industrial Microbiology (second ed.). McGraw-Hill Book Company, New York, Toronto, London.
- [1950] Fredelic E. Clements, Emmett V. Martin and Frances L. Long (1950) Adaptation and origin in the plant world. The role of environment in evolution. The Chronica Botanica Company, Book Department, Waltham, Mass., USA.
- [1950] G. Ledyard Stebbins, Jr. (1950) Variation and evolution in plants. Columbia University Press, New York.
- [1950] James Bonner (1950) Plant Biochemistry. Academic Press Inc., New York.

- [1950] P. Boulanger, G. Biserte, A. Fleisch, A. Gajdos, M.-F. Jayle, F. Kögl, L. Massart, K.-H. Meyer, M. Polonovski, P. Putzeys, G. Schapira (1950) Exposés Annuels de Biochimie Médicale (Publié sous la direction de Michel Polonovski) Onzième Série. , Masson et C^{ie}, Paris.
- [1950] T. Wallace (1950) Trace Elements in Plant Physiology. The Chronica Botanica Company, Waltham, Mass., USA. (with a Foreword by M. J. Sirks)
- [1951] - (1951) Les bases écologiques de la régénération de la végétation des zones arides (On the ecological foundations of the regeneration of vegetation in arid zones) Stockholm, juillet 1950 (Publication ayant bénéficié subvention de l'U.N.E.S.C.O.). Union Internationale des Sciences Biologique Série B (Colloques), Secrétariat général de l'U.I.S.B., Paris.
- [1951] Paavo Kallio (1951) The significance of nuclear quantity in the genus micrasterias, Helsinki.
- [1951] Malcolm Dixon (1951) Multi-enzyme systems. Cambridge at the University Press, Cambridge.
- [1951] T. Wallace (1951) The Diagnosis of mineral deficiencies in plants. By visual symptoms. A colour atlas and guide. His Majesty's Stationery Office, London
- [1951] Ulrich Ruge (1951) Übungen zur wachstums-und entwicklungsphysiologie der pflanze., Pflanzenphysiologische Praktika Band IV., Springer-Verlag, Berlin-Göttingen-Heidelberg.
- [1951] Zoïa Kulescha (1951) Recherches sur l'élaboration de substances de croissance par les tissus végétaux. Librairie Générale de l'Enseignement, Paris.
- [1952] Henri Perrin (1952) Sylviculture, Tome Premier. Ecole Nationale des Eaux et Foret, Nancy.
- [1952] K. Paech und W. Simonis (1952) Übungen zur stoffwechselfysiologie der pflanzen., Pflanzenphysiologische Praktika Band I., Springer-Verlag, Berlin-Göttingen-Heidelberg.
- [1953] - (1953) Biometric problem in the prediction and estimation of the growth of plants in tropical and subtropical regions. Les problemes biométriques qui se posent dans la prévision et l'estimation de la croissance des plantes dans les régions tropicales et sub-tropicales, Calcutta, Décembre 1951. Union Internationale des Sciences Biologique Série B (Colloques), Secrétariat général de l'U.I.S.B., Paris.
- [1953] - (1953) Le Bactériophage – colloque de Rayaumont – Juillet 1952 (Publication ayant bénéficié subvention de l'U.N.E.S.C.O.). Union Internationale des Sciences Biologique Série B (Colloques), Secrétariat général de l'U.I.S.B., Paris.
- [1953] FAO (1953) Raw materials for more paper. Pulping processes and procedures recommended for testing. FAO,Rome.
- [1953] G. E. Fogg (1953) The metabolism of algae. Methuen & co. Ltd., London.

- [1953] Jean Pavillard (1953) Contribution à l'étude de la croissance des plantes virosées : Virus et auxines. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Paris.
- [1953] Jean Pavillard (1953) Contribution à l'étude de la croissance des plantes virosées : virus et auxines. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelle, Causse Graille Castelnau, Montpellier.
- [1953] L. J. Audus (1953) Plant Growth Substances, Leonard Hill Limited, London.
- [1953] L. Lison (1953) Histochimie et cytochimie Animales. Principes et méthodes (Collection des Actualités Biologiques sous la direction de M. Robert Lévy). Gauthier-Villars, Éditeur, Paris
- [1953] Marc Hallaire (1953) Diffusion capillaire de l'eau dans le sol et répartition de l'humidité en profondeur sous sols nus et cultivés. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le titre d'ingénieur-docteur, Institut National de la Recherche Agronomique, Paris.
- [1953] T. Lyssenko (1953) Agrobiologie. Genetique, Selection et Production des Semences. Editions en Langues Etrangères, Moscou. (ルイセンコ農業生物学)
- [1954] Friedrich Cramer (1954) Papierchromatographie. Verlag Chemie, Weinheim/Bergstr.
- [1955 (reproduced, original 1950)] L. Plantefol (1950-55) Cours de botanique et de biologie végétale. Tome II. Librairie Classique. Eugène Relin, Paris
- [1955] - (1955) La physiologie des cultures de tissus végétaux (Publication ayant bénéficié subvention de l'U.N.E.S.C.O.). Union Internationale des Sciences Biologique Série B (Colloques), Secrétariat général de l'U.I.S.B., Naples (Italie).
- [1955] D. E. Lea (1955) Actions of radiations on living cells (second ed.). Cambridge at the University Press, Cambridge.
- [1956] André Lawalrée (1956) Spermatophytes Volume II-Fascule II., Flore Général de Belgique (publiée sur la direction de Walter Robyns), Ministère de L'Agriculture – Jardin Botanique De L'État, Bruxelles.
- [1956] Maurice Chassagne (1956) Inventaire analytique de la flore d'auvergne et contrées limitrophes des départements voisins. Tom I (Encyclopédie Biogéographique et écologique XI). Editions Paul Lechevalier, Paris.
- [1957] André Lawalrée (1957) Spermatophytes Volume II-Fascule III., Flore Général de Belgique (publiée sur la direction de Walter Robyns), Ministère de L'Agriculture – Jardin Botanique De L'État, Bruxelles.
- [1957] Frits W. Went (1957) The experimental control of plant growth. Waltham, Mass, USA.

- [1957] Iaroslav Sossountzov (1957) Croissance, sexualité et dimensions des prothalles de *Gymnogramme calomelanos* en culture aseptique sur quelques milieux azotes minéraux.. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masque D'Or, Angers.
- [1957] Jacques Ricard (1957) Recherches quantitatives sur la croissance du coléoptile des graminées. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Centre Régional de Documentation Pédagogique, service des Éditions – Annexe D'Aix (Anciennement Office Universitaire de Polycopie), Aix-En-Provence.
- [1957] Jacques Rocard (1957) Recherches quantitatives sur la croissance du coléoptile des graminées. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Centre Régional de documentation pédagogique service des éditions-Annexe d'Aix, Paris.
- [1957] Lucien Baillaud (1957) Recherche sur les mouvements spontanés des plantes grimpanes. Imprimerie Carrère, Rodez.
- [1957] Maurice Chassagne (1957) Inventaire analytique de la flore d'auvergne et contrées limitrophes des départements voisins. Tom II (Encyclopédie Biogéographique et écologique). Editions Paul Lechevalier, Paris.
- [1958] André Lawalrée (1958) Spermatophytes Volume III-Fascule I., Flore Général de Belgique (publiée sur la direction de Walter Robyns), Ministère de L'Agriculture – Jardin Botanique De L'État, Bruxelles.
- [1958] Arlette Lance (1958) Recherches cytologiques sur l'évolution de quelques méristèmes apicaux et sur ses variations provoquées par des traitements photo-périodiques. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1958] Claude Maritin (1958) Etude de quelques déviations de métabolisme chez les plantes atteintes de maladies a virus. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1958] Jen-Marie Lefebvre (1958). Étude des variations des substances azotées au cours de la végétation de l'orge. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le titre de docteur de l'Université, Institut National de la Recherche Agronomique, Paris.

- [1958] Yvonne Cauderon (1958) Étude cytogénétique des agropyrum Français et de leurs hybrides avec les blés. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Institut National de la Recherche Agronomique, Paris.
- [1959] André Lawalrée (1959) Spermatophytes Volume III-Fascule II., Flore Général de Belgique (publiée sur la direction de Walter Robyns), Ministère de L'Agriculture – Jardin Botanique De L'État, Bruxelles.
- [1959] Ginette Simon née Sylvestre (1959) L'enfouissement des pailles dans le sol. Étude générale et répercussions sur la microflore du sol. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Institut National de la Recherche Agronomique, Paris.
- [1959] Jacques Rivière (1959) Contribution à l'étude de la rhizosphère du blé. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie Alençonnaise, Alençon.
- [1959] Jean-Edme Loiseau (1959) Observations et expérimentation sur la phyllotaxie et le fonctionnement du sommet végétatif chez quelques Balsaminacées. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1960] André Lawalrée (1960) Spermatophytes Volume III-Fascule III., Flore Général de Belgique (publiée sur la direction de Walter Robyns), Ministère de L'Agriculture – Jardin Botanique De L'État, Bruxelles.
- [1960] Marie-Louise Champigny (1960) L'influence de la lumière sur la genèse des acides aminés dans les feuilles de *Bryophyllum Daigremontianum* Berger. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Librairie Générale de l'Enseignement, Paris.
- [1960] Nur Mohammad Sheikh (1960) Influence des produits de la réaction de maillard sur la fermentation alcoolique et le développement de la levure. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le titre de docteur de l'Université (Mention Sciences), Institut National de la Recherche Agronomique, Paris.
- [1960] Y. Ménoret (1960) Action de l'Acide 2,4-dichlorophénoxyacétique sur le métabolisme azoté des tissus de carotte cultivés *in vitro*. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade d'ingénieur-docteur, Imprimerie Alençonnaise, Alençon.
- [1961] André Lawalrée (1961) Spermatophytes Volume IV-Fascule I., Flore Général de Belgique (publiée sur la direction de Walter Robyns), Ministère de L'Agriculture – Jardin Botanique De L'État, Bruxelles.

- [1961] Arthur J. Eames. (1961) *Morphology of the Angiosperms*. McGraw-Hill Book Company, New York, Tronto, London.
- [1961] Daniel Zagury (1961) Contribution à l'étude morphologique des sécrétions pancréatiques chez le rat. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1961] Guy Privat (1961) Recherches sur les Phanérogames parasites (Étude d'«Orobanche Hederæ» Duby). Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Montpellier, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson et C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1961] Jeannine Gyr (1961) Le métabolisme des acides organiques dans les feuilles de *Pelargoium peltatum* L.. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès-sciences naturelles, Librairie Générale de l'enseignement, Paris.
- [1961] Nicole Pyreire (1961) Contribution à l'étude morphologique, histologique et physiologique des cystolithes. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Revue de cytologie et de Biologie Végétales, Tome XXIII-Fascicule 2-3, Paris.
- [1962] Gerald Collet (1962) Action de l'acide gibérellique sur la croissance et le catabolisme auxinique du *phaseolus vulgaris* L. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Lausanne, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie Favre & Favre S. A., Lausanne.
- [1962] Hiroshi Harada (1962) Etude des substances naturelles de croissance en relation avec la floraison. – Isolement d'une substance de montaison. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur es-sciences naturelles, Librairie Générale de l'enseignement, Paris. (原田宏先生、後に CNRS のファイトロン研究所所長、筑波大教授・副学長等を歴任)
- [1962] Jacqueline Lajudie (1962) Contribution à l'étude des bacteries thermophiles telluriques. Thèses présentées pour obtenir le grade de docteur es-sciences naturelles (ETAT), Faculté des sciences, Université d'Alger.
- [1962] Simone Puisseux née Dao (1962) Recherches biologique et physiologiques sur quelques dasycladacées, en particulier, le *Batophora Oerstedii* J. Ag. et l'*Acetabularia mediterranea* Lam.. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès-sciences naturelles, Librairie Générale de l'Enseignement, Paris.

- [1963] André Lawalrée (1963) Spermatophytes Volume IV-Fascule II., Flore Général de Belgique (publiée sur la direction de Walter Robyns), Ministère de L'Agriculture – Jardin Botanique De L'État, Bruxelles.
- [1963] Anna Favard née Semenof (1963) Contributions à l'étude histologique et cytologique de la croissance et du développement des «Drosera». Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson & C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1963] Arthur Wallace (1963) Solute uptake by intact plants. Edwards Brothers, Inc., Ann Arbor, Michigan, USA.
- [1963] Danielle Viala (1963) Contribution à l'étude des modifications anatomiques et chimiques des bois attaqués par des *Stereum*. Mémoire présenté pour l'obtention du diplôme d'études supérieures (Biochimie), Faculté des sciences de l'Université de Paris, Paris.
- [1963] J. M. Dubert (1963) Biochimie Fascicule 1, Structures - Anticorps – Enzymes. Association Corporative des Etudiants en Sciences, Paris.
- [1963] Joseph Dietrich (1963) Application de la microradiographie par contact à l'étude de la division cellulaire. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Strasbourg, pour obtenir le grade de docteur ès sciences.
- [1963] Michel Kobr (1963) Action de l'acide β -indolyl-acétique et du 2,4-dinitrophénol sur la croissance et la respiration des segments apicaux de la racine du «lens». Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Lausanne pour l'obtention du grade de docteur ès sciences, Imprimerie La concorde, Lausanne.
- [1963] Myriam Vallée née Shealtiel (1963) Recherches sur l'exsorption et l'absorption du rubidium par des racines excisées d'Orge. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Lausanne pour l'obtention du grade de docteur ès-sciences, Paris.
- [1963] Paul-André Siegenthaler (1963) Métabolisme azoté croissance et catabolisme auxinique des plantules du «Lens». Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Lausanne, pour l'obtention du grade docteur ès sciences, Imprimer Baud, Lausanne.
- [1964] Anne-Marie Catesson (1964) Origine, fonctionnement et variations cytologiques saisonnières du cambium de L'«Acer pseudoplatanus» L. (Acéraées). Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson et C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1964] Françoise Ferron-Trosseau (1964) Absorption du césium par l'orge influence de sa rétention dans le sol action compétitive du potassium. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le titre de docteur 3^e cycle, Paris.

- [1964] Societebotanique de France (1964) Colloque sur la culture des tissus. Revue de cytologie et de Biologie Végétales, Tome XXVII-Fascicule 2-3-4, Laboratoire de botanique de la Sorbonne, Paris.
- [1965] - (1965) Travaux dédiés a Lunien Plantefol, Masson & C^{ie}, Paris.
- [1965] - (1965) Travaux dédiés a Lunien Plantefol. Volume des Palnches Hors Texte. Masson & C^{ie}, Paris.
- [1965] Léonardo Caporali (1965) Nouvelles observations sur la biologie du *Taphrina deformans* (Berk) Tul. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie Alençonnaise, Alençon.
- [1965] Marcel Signol (1965) Modification morphologiques, pigmentaires et cytologiques induites chez divers groupes de végétaux par quelques substances antichlorophyllyiennes. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Librairie Générale de l'enseignement, Paris.
- [1965] Marie-Hélène Laur (1965) Les lipides de quelques rhodophycées (Recherches cytochimiques, chimiques et physiologiques). Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Librairie Générale de l'Enseignement, Paris.
- [1965] Maurice Cocordano (1965) Contribution à l'étude physico-chimique des mécanismes de la croissance cellulaiestructure électronique et mécanismes d'action de dérivés chlorés des acides benzoïque et phénoxyacétique. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université d'Aix-Marseille, pour obtenir le grade de docteur ès sciences physiques.
- [1965] Michel Penot (1965) Étude de rôle des appels moléculaires dans la circulation libérienne. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Strasbourg, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Gauthier-Villars, Éditeur, Paris.
- [1966] Aries Kovoov (1966) l'action de quelques extraits d'origine naturelle sur la croissance et le développement des tissus végétaux cultivés «in vitro». Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson et C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1966] Anne-Marie Le Saint (1966) Observations physiologiques sur le gel et l'endurcissement au gel chez le Chou de Milan. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Librairie Générale de l'Enseignement, Paris.
- [1966] Jean Schaeffer (1966) Contribution à l'étude de l'anthèse des graminées. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Imprimerie P. Oudon, Paris.

- [1966] Madame Laurent (1966) Contribution à l'étude de tanins et des borées par les prothalles de filicinées. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Librairie Générale de l'Enseignement, Paris. (コピ一 1)
- [1966] Madame Laurent (1966) Contribution à l'étude de tanins et des borées par les prothalles de filicinées. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Librairie Générale de l'Enseignement, Paris. (コピ一 2)
- [1966] Robert Jonard (1966) Action des rayons X sur les tissus végétaux cultivés *in vitro*. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Édition Essor, Paris.
- [1967] Albert Guillot (1967) Recherches physiologiques sur la phizogense chez la jeune plant etiolee de tomate. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Paris.
- [1967] Colette Nitsch (1967) Induction «in vitro» de la floraison chez une plante de jours courts : «*Plumbago indica*» L. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Montpellier, pour l'obtention de titre de docteur de l'Université de Paris, Masson et C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1967] Jean-Claude Courduroux (1967) Étude de mécanisme physiologique de la tubérisation chez le Topinambour (*Helianthus tuberosus* L.). Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Clermont-Ferrand, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Masson et C^{ie}, Éditeurs, Paris.
- [1967] Jean-Claude Roland (1967) Contribution à l'étude d'un tissu végétal : Recherches infrastructurales et histochimiques sur le collenchyme. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences, Masson & C^{ie}, Paris.
- [1968] Albert C. Cohen (1968) Recherche sur le rôle du potassium dans la physiologie des tissus végétaux isolés. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Paris.
- [1968] Albert C. Cohen (1968) Recherches sur le rôle du potassium dans la physiologie des tissus végétaux isolés. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Paris.
- [1968] C. Picard (1968) Aspects et mécanismes de la vernalisation. Masson et C^{ie}, Éditeurs, Paris.

- [1968] Pierre Vescovi (1968) Recherches morphologiques et ontogéniques sur trois papilionacées : *Lathyrus aphaca* L., *Spartium junceum* L. et *Sarothamnus scoparius* Koch. Thèses présentées à la faculté des sciences de l'Université de Paris pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Revue de cytologie et de Biologie Végétales, Laboratoire de botanique de la Sorbonne, Paris.
- [1976] François Larher (1976) Sur quelques particularité du métabolisme azoté d'une halophyte : *Limonium vulgare* Mill. Thèses présentées devant l'Université de Rennes U.E.R. des Sciences Biologiques, pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Rennes.
- [1980] Anne-Marie Pennarun (1980) Mécanismes de la distribution endocellulaire des ions sodium dans les cellules libres d'Acer pseudoplatanus, L.. Thèses présentées à l'Université Paris VII pour obtenir le grade de docteur ès sciences naturelles, Paris. (現在パリ第7大学電気生理学教室准教授)
- [1980] Jean-Pierre Rona (1984) Dossier de candidature à un poste de maitre de conférences à l'Université Paris VII, Recrutement sur un emploi de maitre de conférences, Académie de Paris, 38^{ème} section, Université Paris VII, Paris. (パリ第7大学の准教授相当職昇任審査、後に同大・植物学・電気生理学教室教授)

JOURNALS

- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, (Tome 1), No. 1 (1955)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, (Tome 1), No. 2 (1955)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, (Tome 1), No. 3 (1955)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 2, No. 1 (1956)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 2, No. 2 (1956)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 3, No. 1 (1957)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 3, No. 2 (1957)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 3, No. 3 (1957)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 4, No. 3 (1958)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 4, No. 4 (1958)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 5, No. 1 (1959)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 5, No. 2 (1959)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 5, No. 3 (1959)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 5, No. 4 (1959)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 6, No. 1 (1960)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 6, No. 2 (1960)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 6, No. 3 (1960)
- Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 6, No. 4 (1960)

Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 7, No. 1 (1961)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 7, No. 2 (1961)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 7, No. 3 (1961)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 7, No.4 (1961)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 8, No. 1 (1962)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 8, No. 2 (1962)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 8, No. 3 (1962)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 8, No. 4 (1962)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 9, No. 1 (1963)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 9, No. 3 (1963)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 10, No. 1 (1964)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 10, No. 2 (1964)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 10, No. 3 (1964)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 10, No. 4 (1964)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 11, No. 1 (1965)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 11, No. 2 (1965)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 11, No. 3 (1965)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 11, No. 4 (1965)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 12, No. 1 (1966)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 12, No. 2 (1966)
Bulletin de la Société Française de Physiologie Végétale, Tome 12, No. 3 (1966)
Chemistry and Physics of Lipids (North-Holland), Vol. 1, No. 1 (1966)
Oecologia Plantarum (Gauthier-Villars, Paris), Tome 4, No. 1 (1969)
Plant Science Letters-aninternational Journal of Experimental Plant Biology, Vol. 1. No. 1. (1973)

カタログ

R. Friedländer & Sohn (Buchhandlung und Antiquariat), Katalog 777 Botanik (1978)

河野コレクションへの追加

- [1894] Maurice C. De Laplanche (1894) Dictionnaire Iconographique des Champignon Supérieurs (Hyménomycètes). Dejussieu Père et Fils, Autun./P. Klincksieck, Paris.
- [1907] J.-H. Fabre (1907) Souvenirs Entomologiques (Dixième série). Librairie CH. Delagrave, Paris.

以下、Dr. Francois Bouteau からの贈り物

- [1939] Carl Bugge (1939) Hemsedal Og Gol beskrivelse til de geologiske gradteigskater E 32 V og E 32 Ø. Norges Geologiske Undersökelse, Nr. 153. I Kommision Hos H. A. Aschehoug & co., Oslo.
- [1949] Trygve Strand (1949) On the gneisses from a part of the North-western gneiss area of southern Nowway. Norges Geologiske Undersökelse, Nr. 173. I Kommision Hos H. A. Aschehoug & co., Oslo. (表紙のみ)
- [1964] Cristoffer Oftedahl, Janet Springer Peacey, Fredrik Chr. Wolff (1964) Studies in the Trondheim region, Central Nerwegian Caledonides. Norges Geologiske Undersökelse, Nr. 227. Universitetsforlaget, Oslo.
- [1964] Ebbe Zachrisson (1964) The Remdalen Syncline. Stratigraphy and tectonics with nine plates in a separated folder. Sveriges Geologiska Undersökning, Stockholm.
- [1964] Ebbe Zachrisson (1964) The Remdalen Syncline. Stratigraphy and tectonics. Plates I-IX. Sveriges Geologiska Undersökning, Stockholm.
- [1965] T. Torske (1965) Geology of the Mostadmarka and Selbustrand area, Trøndelag. Norges Geologiske Undersökelse, Nr. 232. Universitetsforlaget, Oslo.
- [1967] Fr., Chr. Wolff et al. (1967) Studies in the Trondheim region, Central Norwegian Caledonides II. Norges Geologiske Undersökelse, Nr. 245. Universitetsforlaget, Oslo. (コピー1)
- [1967] Fr., Chr. Wolff et al. (1967) Studies in the Trondheim region, Central Norwegian Caledonides II. Norges Geologiske Undersökelse, Nr. 245. Universitetsforlaget, Oslo. (コピー2)
- [1967] Jaques Touret (1967) Les gneiss oeilles de la region de Vegårshei – Gjerstad (Norvege Meridionale). I. Etude Petrographique. Reprint from Norsk Geologisk Tidsskrift, vol. 47, part 2, 1967, pag. 131-148.), Bergen.
- [1967以降] Trygve Strand (19--) Stratigraphy and structure of eocambrian and younger deposits in a part of the Gudbrandsdal vally district, South Norway. Reprint from Norges Geologiske Undersökelse, Nr. 251), Oslo.
- [1968] Bjørn G. Andersen (1968) Gracial geology of western Troms, North Norway. Norges Geologiske Undersökelse, Nr. 256. Universitetsforlaget, Oslo.
- [1968] Jaques Touret (1968) The precambrian metamorphic rocks around the lake Vegår (Aust-Agder, Southern Norway). Norges Geologiske Undersökelse, Nr. 257. Universitetsforlaget, Oslo.

今回は、ニュース欄での速報でしたが、資料整理を終えて、第1次、第2次調査の内容と合わせて、正式な記事として後日報告いたします。以上

日仏科学史資料センター

議事録 1

第一回編集会議

2007年11月10日 19:30～

於：北九州市立大学国際環境工学部 於：日仏科学史資料センターオフィス

議長：河野 智謙

書記：陽川 憲

出席者：河野、角野、陽川、蔭西

◎ サイエンスカフェ（11月10日北九州学術研究都市にて開催）への視察記事の作成

→視察内容に関しては本号 NEWS 参照

◎ 本センターによるサイエンスカフェの開催のアナウンス

（案）・第一回サイエンスカフェは北九州学術研究都市内のカフェにおいて開催

- ・本センター会員を主に対象とする。
- ・スピーカーを選定し、30分程度の講演を予定。
- ・候補としては本センターの学術アドバイザーから選定。

→詳細に関しては本号 NEWS 参照

◎ Vol. 1, No. 2（本号）は2007年12月内に出版予定。

◎ 2008年2, 3月に Vol. 2, No. 1 出版予定。

◎ センター所蔵コレクションの紹介について、1冊につき1ページほどを編集委員が
毎号担当する。

◎ センター所蔵コレクションについてカタログを作成し、<Announce>+<Collection>の
ページで紹介していく。

◎ 河野編集委員がパリの学術アドバイザーに<Member's Voice>執筆依頼を行う。

◎ 特集論文企画：Fabre（ファーブル）、植物との接点について

同日 20:00 閉会

日仏科学史資料センター

議事録 2

第二回理事会、第二回編集会議

2007年12月1日

於：河野理事長の海外出張のためにメールにおいて開催

議長：河野 智謙

出席者（メール受信者）：河野、陽川、林、福田、蔭西

◎ 新規の海外学術アドバイザーの選任について

→パリ第7大の2名の博士（共に助手クラスの若い先生）に海外学術アドバイザーへの就任依頼。

◎ イベント開催について

→来年春に初めての公式イベントとしてサイエンスカフェ（若しくはバー）をセンターあるいは紀要編集組織の主催で開催する案が、前回の編集委員会（参加者：蔭西、角野、河野、陽川）で提案されたので、実施を計画する。

→全員の承認を得た。

閉会
